

つなげよう救命の輪！

西はりま消防組合



心停止の予防



早期認識と
通報



一次救命処置



二次救命処置と
集中治療

◎ 1つめの輪【心停止の予防】

小児においては、外傷・溺水・窒息、乳児においては、SIDS（乳児突然死症候群）の事故防止。
成人の“急性心筋梗塞”“脳卒中”の初期症状に気付いて、早期に救急車を要請する。（早期治療開始）

◎ 2つめの輪【早期認識と通報】

反応のない人を見たらただちに心停止を疑い、救急隊やAEDが少しでも早く到着するように努める。
119番通報をおこなうと電話を通して心肺蘇生などの指導を受けることができる。

◎ 3つめの輪【一次救命処置（心肺蘇生法とAED）】

質の高い心肺蘇生によってAEDの効果を最大にするとともに、脳に後遺症を残さない。

◎ 4つめの輪【二次救命処置と集中治療】

救急救命士や医師の二次救命処置、心拍が再開すれば専門的な集中治療により社会復帰を目指す。

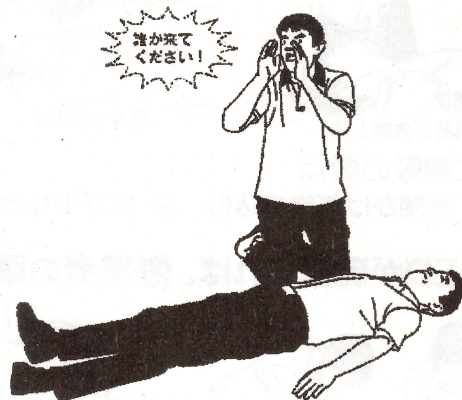
【1】反応の確認 ※安全が確認できたら

反応の確認 ♪ “もしもし、大丈夫ですか？”
（大声で3回、肩をたたきながら） “反応なし”
※倒れている人の顔に近づきすぎないように注意する



【2】助けを呼ぶ ※大声で

“誰か来てください！人が倒れています”

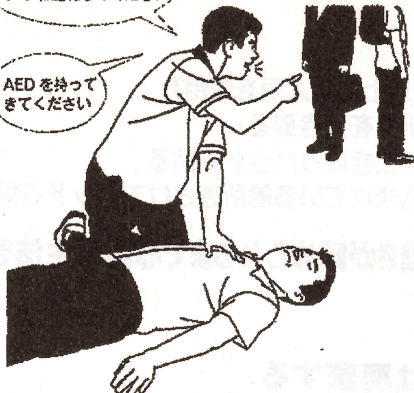


【3】119番通報・AED

“この人反応がありません”
“あなた119番通報をお願いします”
“あなたAEDを持ってきてください”

人が倒れていることを
119番通報してください

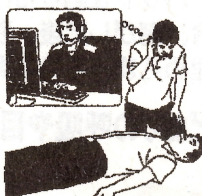
AEDを持って
きてください



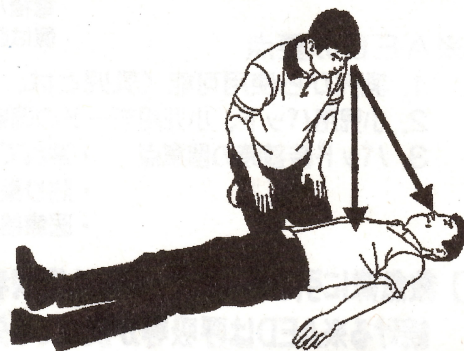
【4】呼吸の確認（心停止の判断）

呼吸の確認 ♪ “1、2、3、4、5”
“呼吸なし”

※死戦期呼吸（普段どおりではない呼吸）
※倒れている人に近づきすぎないように注意する



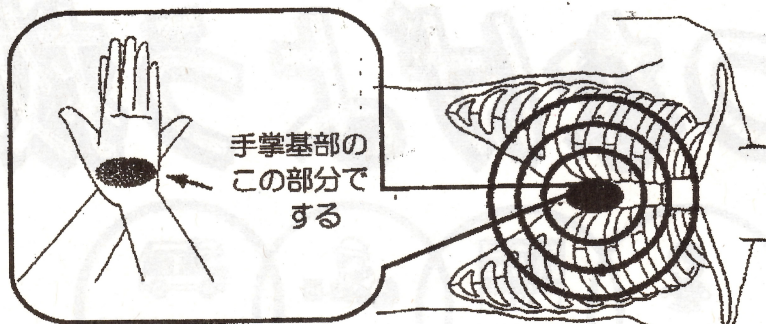
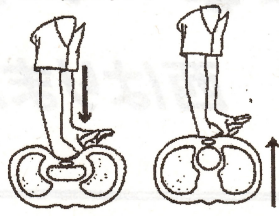
119番通報すると、指令員
より救助者が行うべきこと
を指導してくれます



※裏面へ続く

【5】胸骨圧迫

胸骨圧迫 ♪ “1,2,3,4,5,・・・
・・・28,29,30”



※胸骨圧迫の要点

- 1 傷病者の顔をハンカチ等で覆いエアロソルの飛散を防止する
- 2 胸骨の下半分を押す（胸の真ん中が目安）
- 3 深さ（胸が約5cm沈むまで）
- 4 速さ（1分間に100～120回のテンポで）
- 5 30回連続で押す（胸骨圧迫の中断は最小に）
- 6 圧迫の十分な解除
- 7 手が胸から離れないように圧迫をゆるめた時胸を元の高さまで戻す
- 8 救助者が複数いれば1～2分おきに交代する

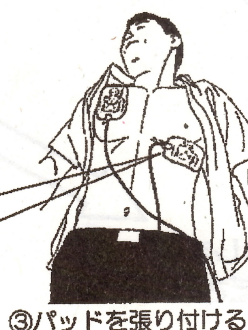
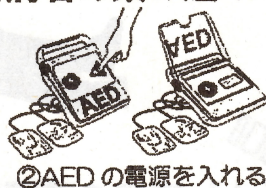
【6】人工呼吸（子供の場合のみ）※新型コロナウイルス流行している状況では、成人に対しての人工呼吸は実施しない！



※人工呼吸の要点

1. 約1秒間かけて吹き込む
2. 胸が少し上がるのが見えるまで吹き込む
3. 吹き込みは入らなくても2回まで

【7】AEDが到着すれば、傷病者の頭の近くに置き電源を入れ、音声メッセージに従い操作



※AEDの要点

1. 乳児から使用可能（乳児とは、1歳未満をいう）
2. 小児用パッド、小児用モードの適応年齢は乳児を含め小学生未満（小学生以上は成人用を使用）
3. パッド装着時の留意点
 - ・濡れている場合、パッドを貼り付ける部分の水分を拭き取る
 - ・貼り薬がある場合、剥がした後、残った薬剤を拭き取りパッドを貼る
 - ・医療器具が胸に埋め込まれている場合、埋め込まれている箇所をさけてパッドを貼る

【8】救急隊に引き継ぐまで、または傷病者に普段どおりの呼吸や目的のある動きが認められるまで心肺蘇生法を続ける※AEDは呼吸等が戻っても外さない

【9】心肺蘇生後は速やかに手と顔を洗い、使用したハンカチ等は廃棄する